

勝林奇奇報

顏色和悅施

和悦施
（げんしき
わえつ
せ

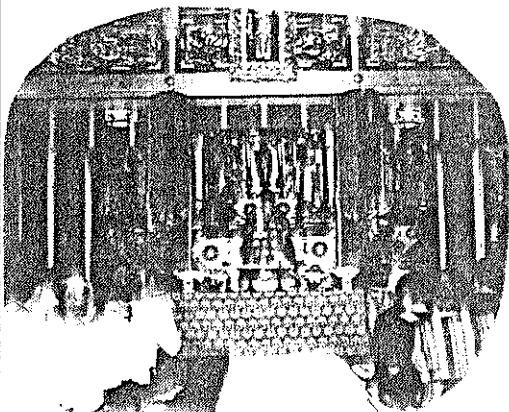


お金も力もなにもなくとも、させてもらえるわたしの仕事があるのです。「無財の七施」（むざいの質せ）。その第一番目が「顔色和悦施」。春の陽のようなごやかな悦びの顔色が、なによりの恵み施し。

春の陽のようの、和やかな悦びの顔いろ。
いかがでしようか、お金も力もないとなげくあなたにも、手ぶらができる、すばらしい施しではありませんか。「顔色和悦施」。

鏡は正直であります。
怒り腹立ちの、青筋たてかおで鏡を
にらんでご覧なさい。鏡のなかのかおも
やつぱり、青筋たててわたしをにらみか
えします。
怒り腹立ち疑いのこころで、ひとに對
してご覧なさい。相手もかならず、怒り
腹立ち疑いの冷たいこころで私をにらみ
かえしてくるに違いありません。
春の陽ざしのような、あたたかな頬い
ろが、春のうつくしい花ばなを咲きださ
せるのです。

如来さまの、春の陽ざしのような、大きな暖かなひかりに触れると、自然に、
顔いろもこころねも、なごやかに和らい
でくると『大無量寿經』（触光柔軟）に
は説かれています。
また、同じ『大無量寿經』には、如來
さまは、「和顏愛語（わげんあいご）先
意承問（せんいしじょうもん）」と言つて、



王氏蘭盆會

戰沒者追悼法要

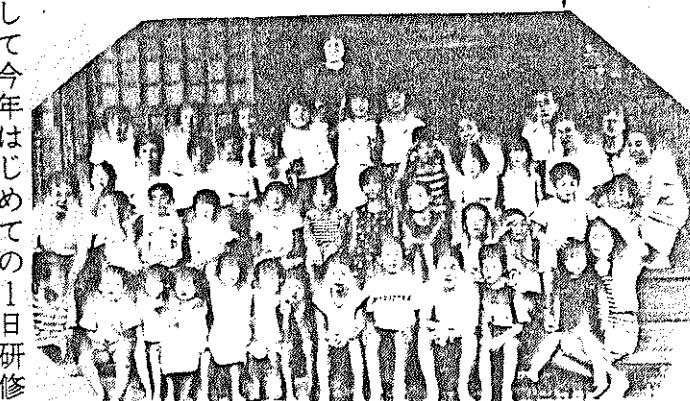
八月八日、戦没者遺族を含む七〇名の参詣を得て厳かに勤修されました。表白、百十名の戦没者名簿の読み上げのあと、全員で「お正信偈」をあげお焼香をしました。住職からのご法話と門徒総代のごあいさつもありました。ご遺族の老齢化がひとしお胸にしました。

こころみとして今年はじめての1日研修でした。かなり濃縮されたハードな日程になりましたが、とくに仏社会長谷垣先生の援助もあって、あつまつた三〇名のこどもたち、お勤め・作法のお稽古にまた歌の練習・ゲームなど終日元気一杯遊びかつ学びました。仏婦役員20人の奉仕によるごちそうやおやつ、それに工作手芸で美しいお土産までいただき、みんな「またくるね」と約束して別れました。

わたしたち、石、瓦、つぶてのようないま、如来さまの和やかなお顔で、のぞき込まれ問われている。この、つらい一日を生きている私が、実は、如来さまの春の陽ざしのような光のなかにある。

そうですね。そのことを思えば、このよろこびが自然に私の顔にも溢れて、顔色和悦、にこやかに、やわらかな顔色で人さまに会えることができるくらいが、うまれてくるのではありますまい。

きな ほとけのこ こども研修会



九月のこよみ

岡山地区総代研修
組寺族婦人協議会(西畠)
組仏社役員会(正福寺)
出石組総代研修会(西宗寺)
出石組組会(西翠寺)
甚幹運動専門部会(本山)
安芸教区巡回教隨行(正福寺)

同じ	東播地区総代研修
玉日会(西宮)	基幹運動専門部会(西宮)
教区連研研究会(西宮)	安芸教区ご巡教隨行(西宮)
出石組特別講座(正岡寺)	同上
寺族同朋講座	同上
臨時組内会	同上
仏壮大仏婦合同役員会	同上
基幹運動専門部会(正岡寺)	同上
組結集大会事務局會議	同上
津居山照満寺彼岸会	同上
同じ	同上
同じ	同上
彼岸会	同上
「みのりを聞く会」	同上
研修読本検討部会(西宮)	同上

秋の 彼岸会

9月26日
午後2時

みほとけは
したいまつりて みなよべば
つつみています わがいのち
つつみています わがいのち

誘いあって
お参りください

生きかたに

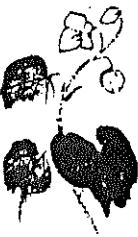
二つある

1、生きるべき いのちを

死んで行く

2、死すべき いのちを

生きて行く



お釈迦さまの最後のことば
すべてのものは 移り変わる
あなたたち
だから つとめ励みなさい。

死をみつめ、「無常」をいきながら、
それを越えた「無量壽」にどう生き変えるのか。
それが仏教。

必ず迫つて来る死。
「すべてのものは移り変わる」。死すべきこの「無常」ないのちを、一日一日どう生きるのか。

「人生八十年時代。もう少し生きるはずのいのちを、空しく死んでゆかねばならぬ」無念さ。なんとしても「生」にかかりついていたい。医療から見放されると、なりふりかまわず神仏に祈り願をかける。迫り来る死に目をつぶり懸命に逃げ回る人生。
しかしそれでも確実に死は、やつてくる。

「お正信偈」

のカセットが
あります



浄土真宗のご門徒の、日常の勤行(ごむぎょう)の一おつとめとして蓮如上人の昔から今まで、いつでもどんなときにも唱和されてきたこの「お正信偈」を、若い人達にも子や孫にも、しっかりと正しく伝えに行きたいものです。そのためには先、私が毎日正しくお勤めすることです。

吉早並唱(こうじよなぎょう) A面

この節は、ご本山でも、平常毎朝のおつとめ(お晨朝)にあげられます。家庭でも平生はこの草譜でおつとめするのが普通です。二十五分間。お通夜・七日参り、その他。

竹並唱(ぎょうふ) B面

特に大切な法要の時にあげます。本山でもご開山さまの月忌等。三十五分間。

お宅での「お正信偈」の練習のために録音しましたが、テープの都合で若干調子が早くなっています。頒価三〇〇円。

☆「ご巡教」とは

浄土真宗本願寺派の門主は大谷光真さまです。門主にお就きになって以来(昭和56年から)、全国(耕作)の「組」をお訪ねになり、直接門信徒のかたがたともご法義のことや門信徒会運動・同朋運動などを話し合おうと「巡教」ということをなさっています。出石組にもいざれご巡教下さることですが、そのご巡教のお供をして話し合いやご法話のお手伝いをさせていただく隨行講師として九月には安芸(広島)へ出向いたします。

☆「御同朋総結集大会」とは

ここ十年の間に教区や組は大分活気づいてきました。それまでは、古い殻にとじこもっていただけではなくひどい差別の体質を温存していました。これではいけないということをやつたり、みんなで一から「組画変更」といきなおそうと「電研」が始まつたり、仏婦や仏社の活動、寺の活動も活発になってきました。そこでここらで一度みんなで集まって、やって来たことを結集点検しあいましょう。そしてこれからも仏婦。総代会・寺族、「組ぐるみ」で、手をたずさえて御同朋の社会をめざして進む決意をしようではないかと開催されるのが、この会です。

出石組は今年十月九日(出石民センター)
兵庫教区は来年十一月七日

はじめまして

横山 貴則 です



八月十日、出石町複見の横山吉一さんの孫(伸三さんの長男)「貴則(きのぶ)」くん(6月22日)が、母みゆきさんと姉の佳子ちゃんに伴われて初参式におまいりしました。1ヶ月半とはとても見えない大きな元気な赤ちゃん。住職から「精進にして忍んで終に悔いす」という法語が贈られました。努力・忍耐、悔いのないお念仏のなかの人生を強く生き抜いてほしいという願いをこめて。

初 参 式

定期検診のお勧め

がんを防ぐ



がんの場合は、何よりも早期発見が大切であることはいうまでもありません。早ければ早いほど、治る率も高いのです。最近では検査技術が発達して、例えば、数年前までは発見することができなかつた親指の頭大の肝臓がんや、胃にできた早期の小さながん、乳癌、子宮がんなども適確に発見できます。そのような早期の状態で切除すれば、ほとんどのがんが治せるようになります。

早期発見、早期治療のために、少なくとも年に一回は、定期検診を受けるようにして下さい。(「がんの発見」)

がんの自覚症状は、病気がすごいぶん進行しないと現れない場合がかなりあります。しかもがんの一般的な症状だといわれている「出血」歯、がん特有のものではなく、他の病気にもみられることがあります。むやみに不安になることなく、専門医による診察を受けることが賢明です。